

★胃X線（バリウム）検査とは

バリウム（造影剤）と発泡剤（胃を膨らませる薬）を飲み、胃の中の粘膜を観察する検査です。

この検査の第一の目的は、胃がんを早期に発見をすることです。

胃がんは、現在でもなお我が国のがん死亡数の上位を占めておりますが、早い段階で発見されればほとんどの場合完治します。

当会では、日本消化器がん検診学会認定技師も在籍しており、常に新しい情報を取り入れて、より精度の高い検査をめざしています。

さらに、検査後の読影には熟練した専門医2名によるダブルチェックを行い有所見者の見落としの無いように対応させていただいております。



★胃X線検査でわかる病気

この検査でわかる病気は、胃では胃癌、胃炎、潰瘍、ポリープ、腫瘍など、十二指腸では潰瘍、ポリープ、変型、狭窄、憩室などが考えられます。癌などの病気以外にも、食道拡張症、胃下垂症などの機能的な病気なども診断することが可能です。

★検査方法

- ① 発泡剤（胃を膨らませる薬）を少量の水または希釈したバリウムで飲みます。
※ゲップが出そうになりますが、唾を飲むようにして我慢してください。
- ② バリウムを120～140ml飲みます。
※こぼさないように注意して全量飲んでください、衣服に付着した場合は再度着替えていただきます。
- ③ 撮影を行います。
※撮影台の上で体を回転してもらったり、体ごと右や左へ向いてもらったりと、何度も繰り返していただきます。マイクで指示が出され様々な角度から（約9枚）の写真撮影を行います。撮影時には息をしっかりと止めていただきます。
検査時間はおおよそ5分です。

